

# アトリエ 琉游舎 だより 165号

アトリエ琉游舎 [ryuyusha.com/](http://ryuyusha.com/)

2023年11月8日発行

琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

## 霜月 仲冬 神帰月

- 霜月（しもつき）仲冬（ちゅうとう）神帰月（かみきづき）いずれも11月の異称です。霜月は霜降月（しもふりつき）が省略されて霜月となったようです。旧暦の11月は陽暦の12月ですので霜が毎日のように下りていたことから付けられた名称なのでしょう。陰暦では冬は10月から12月です。11月はその真ん中の月なので仲冬と呼ばれたようです。10月の神無月に八百万の神々が出雲大社へ出掛けてしまっていたのが、霜月になると帰ってくるため神帰月。
- その他に建子月（けんしづき）、辜月（こげつ）、霜見月（しもみづき）、天正月（てんしょうげつ）、陽復（ようふく）、竜潜月（りゅうせんげつ）などがあるようですが、謂われは分かりません。聞いたことのない異名ですが名前にはそこに意味や願いが込められているはず。11月という月に人々は何を見いだしてきたか漢字の間からみえてくる気がします。
- 同じ現象でもいろいろな別称があるものは、それが日々の生活に密接に結びついた生活と文化の豊穡さを示しているはず。それが正月から順番に番号を振った数字だけを月の名前としている現代は、月や季節の変化に特別の趣を感じる事がなくなったからなのでしょう。
- 漢字は目から意味が飛び込んでくる文字です。仮名やアルファベットの表音文字が文字自体何の意味も表さない文字に対して、漢字の言葉にはその文字を選んだ人の強い意志が感じられます。もちろん耳に入る音（おん）も大切な要素ですが、文字が音だけのものでは日本語は書く楽しみも読む楽しみも半減してしまう味気ない言葉になっていたでしょう。
- 大概の言葉は文字を見ればその読みと意味をそして込められた願いを知ることができるのではないのでしょうか。地名や人の名前を見るとその漢字から土地の歴史や地形、親が子に込めた願いが自然と観えてきます。ただ最近の親や行政の付ける名前・地名にそれが見えてこないのは、漢字が表意から表音の役割へと貶められてしまったからのような気がして残念です。

木 金 土 日

### 10月・11月スケジュール

10月			11月			
月	火	水	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
	読書会 13時半から		映画会 13時半から お休み			
20	21	22	23	24	25	26
			映画会 お休み			
27	28	29	30	12月1日	2	3
	読書会 13時半から		映画会 13時半から			写経会 13時半から
4	5	6	7	8	9	10
			映画会 お休み			

#### 読書会

11月14日  
11月28日  
(火) 13時半

#### 写経会

12月3日  
(日) 13時半

#### 映画会

11月9日  
11月30日 (木)

やっと過ごしやすい気候になってきました。スポーツの秋、芸術の秋。コロナとの共存も滞りなく進んでいるようで、3年ほど中止されていた祭りや体育祭、芸術祭などのイベントも各地で復活して多くの人で賑わっているようです。学校の運動会や発表会も親に限定されていた見学が今年は解除されて、先日妻が一年生の孫の音楽発表会に諏訪まで出かけていきました。その模様がスマホで録画されて送られてきて驚きました。まだ入学して半年ほど、幼稚園で楽器を触ったことがある子もいるかも知れませんが、殆どが鍵盤ハーモニカも太鼓もタンバリンも初めての経験だと思います。20数名ほどの一年生たちが先生の指揮の下、とても素晴らしい演奏が披露されていたのです。曲目は「メリーさんの羊」。短いシンプルな曲ですが、これを指揮に合わせていくつもの変奏曲が奏でられていきます。テンポを変えたり短調やポップ調、打楽器の賑やかな競演と、数種の編曲をそれぞれ見事に演奏し分けていました。ここまでまとめ上げるには担任や学校側の並大抵ならぬ努力と教育への強い意志がなければできなかったでしょう。そして何よりも子供たちの無限の可能性と、皆で協力して作り上げる創造の喜びが「メリーさんの羊」の演奏を通して聞こえてきました。

私の小学校の学習発表会（学芸会の名称だった？）経験は今でも覚えています。「ききみみずきん」の演劇と、曲名は忘れましたが木琴を演奏しました。演技や演奏を通して協調し共鳴し合うこと、小道具や大道具を作る苦労や工夫などをひっくるめて思いを一つにして創造し協働し合う経験は、教育効果として絶大なものがあったと思います。ところで、昨今の栃木の小学校では、音楽会などの文化的発表会は学校行事の中に組み込まれていないようです。妻は長野と東京と栃木の3カ所で小学校の先生をしてきましたが、6年前に栃木に戻ってきて、かつて小学生時代に経験した全校一堂に会する学習発表会に類するものが開かれていないと分かったとき、これは栃木の子供たちにとって大きな損失だと残念がっていました。なぜなら子供の協調や創造、努力、達成感などの能力の開発と社会性や文化的素養の獲得、それらを身につける大切な機会が栃木の子供たちには与えられていないからです。いざ社会に出て様々な教育環境に育ってきた人々が全国から集まり、競争と協調をしていかなければならない時に大きなハンディになるだろうとまで、妻は言っており私も同感です。確かに小学校低学年から2部合唱を教え、高学年では地区の合唱大会を引率し、他流試合を行えるまでに練習に励み指導に尽くした児童も先生も大変な努力と労力であったと、妻は長野での経験を振り返りますが、それ以上に得たものは先生も児童も遥かに大きなものがあつたとも語ります。学習発表会を廃止してその指導時間を家庭との連携や学力テスト対策に振替えたためか、教員の働き方改革のためかしれませんが、未来の人材育成のために何が必要かの教育意志の地域差がそのまま地域力の差になる気がします。

「合掌」は左右両方の手のひらを胸の前で合わせ拝むときの所作です。東南アジアでは日常的な挨拶の作法でもありますが、私たち日本人には仏を拝む時の礼法です。私は毎日朝勤のときに仏様に合掌をするだけでなく、人とお会いしたときや頂きものをしたときにも自然と合掌をしています。他者との出会いも、物を介しての関係性も仏との出会うためのものであると考えるからです。出会いによって自己と他者とが共鳴し合い協働することができたとき、それは仏のもとで合一をなしたということです。私たちが仏となることです。右左両手を合わせるにより仏の世界と現世が一体となるとの仏教の考えは「右手は仏の象徴で、清らかなものや知恵を表し、左手は衆生、つまり自分自身であり、不浄さを持ってはいるが両手を合わせるにより、仏と一体になることや仏への帰依を示すとされる。」と説明されます。私はあまりこのような理屈は必要ないと考えています。素直に手と手を「合わせる（会う）」と言う自然の行為が自己と他者の出会いです。そして私以外の世界の全てを手の中に包み込むことで私（内）と森羅万象（外）が合一します。それを胸の奥（内）に収めたとき、自己と他者との関係性が生まれます。その関係性をありのままのものとして観て、そのままに關係性を紡いでいくなれば、協調と共感が生まれるはず。それが仏の道を歩むことなのです。

同じ「がっしょう」の音（おん）なのでと言うわけではありませんが、私は「合掌」も「合唱」も「合奏」も全く同じことだと考えています。合唱も合奏もその声や音が互いに会い合一になること、それは楽器や音符を通しての自己と他者との出会いではないでしょうか。互いの声や音を聞き、自分の奏でる音と自分以外の音の一つになり、自分でないものと響き合い協調し合うこと、そこに出会いがあり共感があり、創造があるのです。目と耳と五感の全てを通して他者の声を聞き、それを自己の中に頂いて再び自己の声を宇宙に向けて奏でることで、他者（宇宙）と合一できると信じることそれが仏の道を歩むことです。

仏の道は何か特別な鍛錬や行いが必要なものではありません。日々を自己と他者が共鳴し合うことを望みそのように行い続ける（生き続ける）ことです。つまり日々他者の声を聞き、その声に共鳴し自分の声と紡ぎ合いその声に合掌し合唱し合奏した自分の声と共にそのままに毎日の生活をおくることです。仏教が森羅万象全てが仏であると言っているのはこのことだと私は信じています。曹洞宗の開祖道元は「峰の色 谷の響きも 皆ながら 吾が釈迦牟尼の 声と姿と」と詠んでいます。私たちがありのままの日々を送っているならば、眼にする青々とした山並みや谷川のせせらぎが、お釈迦さまの声であり姿となって私たちの前に立ち現れてくるのです。これが日本人の生活の根底に連綿として流れる精神の営みの源流

琉游舎：戸井 出琉・恭子

森羅万象全ての存在は仏であると思える仏教も、八百万の神が宿ると 問い合わせ：0287-53-7848 08033508152

信じる神道も精神の源泉は全く同一です。故に日本人には絶対神の無誤謬の 矢板市大槻2319-17コリーナ矢板C-850

論理で組み立てられた正義や真理は馴染まないのではないかと考えます。 メール：toi10izuru@outlook.jp